## 2024年度入学者 選抜試験日程

**修士課程**

| | 第1回試験 | 第2回試験 |
|---|---|---|
| 出願期限 | 2023年10月6日(金) | 2024年1月5日(金) |
| 第1次審査結果発表 | 2023年11月2日(木) | 2024年2月1日(木) |
| 第2次審査(オンライン面接) | 2023年11月9日(木)又は11月10日(金) | 2024年2月8日(木)又は2月9日(金) |
| 第2次審査結果発表 | 2023年11月22日(水) | 2024年2月28日(水) |
| 入学時期 | 2024年4月 | 2024年4月 |

**博士課程**

| | 第1回試験 | 第2回試験 |
|---|---|---|
| 出願期限 | 2024年1月17日(水) | 2024年5月10日(金) |
| 第1次審査結果発表 | 出願期限日から、原則として、2か月以内に発表する。 | |
| 第2次審査(オンライン面接) | 第1次審査に合格した者にのみ実施する。第2次審査の詳細は、第1次 審査結果と共に発表する。 | |
| 第2次審査結果発表 | 第2次審査日から、原則として、2か月以内に発表する。 | |
| 入学時期 | 2024年4月または10月 | 2024年10月 |

※詳細については各募集要項をご確認ください。
募集要項は本学ウェブサイト https://www.grips.ac.jp/jp/admissions/guidelines/ に掲載されます。

## 学費等

● 検定料:30,000円　● 入学料:282,000円　● 授業料(年間):642,960円(2022年4月入学以降)





Photo: Masao Nishikawa


### 入試に関する問い合わせ

**政策研究大学院大学 アドミッションズオフィス**
〒106-8677 東京都港区六本木7-22-1
E-mail: admissions@grips.ac.jp

### プログラム関する問い合わせ

**政策研究大学院大学 科学技術イノベーション政策プログラム**
〒106-8677 東京都港区六本木7-22-1
TEL:03-6439-6044
E-mail: gist-ml@grips.ac.jp
https://gist.grips.ac.jp/




# 2024

# 科学技術イノベーション政策プログラム



Photo: Masao Nishikawa

GiST GRIPS Innovation, Science and Technology Policy Program

GRIPS 政策研究大学院大学 National Graduate Institute for Policy Studies

政策研究大学院大学
科学技術イノベーション政策プログラム

# Science, Technology and Innovation

## 進化する科学技術、変化する社会。
## 未来の科学技術
## イノベーション政策を考える



科学技術イノベーション政策プログラムディレクター
林 隆之

知識が社会経済の発展に大きな影響を及ぼす知識基盤社会の到来が指摘されてから、既に数十年が経ちました。社会経済はその後に複雑さと不確実さをいっそう増しており、高度な知識を集約させた科学技術イノベーションの適切な推進が、我が国のみならず世界のあり方を決める重要な要因となっています。

しかし、科学技術イノベーションに関する政策の立案や実施は容易ではありません。科学技術の研究開発活動は高度に専門的であり、その成果が社会で実用化されてイノベーションを実現するには長期間の複雑なプロセスを経ます。また、持続可能な社会の実現に向けては、多様なステークホルダーを含めた多面的な要素を含む意思決定が求められます。このように複雑な対象を扱う政策として、科学技術イノベーション政策自体が、客観的根拠に基づく立案、実施、評価を行うよう、高度化することが求められています。

本プログラムは、科学技術イノベーション政策に焦点をおいて修士号と博士号の授与を行う教育課程です。本プログラムを通じて、科学的アプローチを用いた科学技術イノベーション政策や戦略の企画・立案・実行、評価、修正の実務をおこなうことができる高度専門職業人や、科学技術イノベーション政策に関する高度な研究能力を有する研究者の育成を行っています。

さらに、2020年度からは、授業科目を夜間や土曜日にも開講し、働きながら修学できるように改編を行いました。また、履修証明プログラムである「科学技術イノベーション政策・経営人材養成短期プログラム」を新設しました。これにより、多くの人に修学の機会を提供できると考えています。

政策研究大学院大学は、ミッドキャリアの政治家・行政官・企業人を政策や戦略のプロフェッショナル、将来の指導者として養成することを目的として、世界的にネットワークを拡大しています。本プログラムの日本人学生も国内にいながら、そうしたキャリアの留学生とのつながりを得ることも可能です。

科学技術イノベーション政策に対する高い問題意識を持つ人材が集結し、本プログラムで得られる知見がキャリア形成と政策実践に活かされることを強く期待しています。

## INDEX

**P03** 育成する人材像／本プログラムで修得が期待できる能力
**P04** 教員紹介
**P05** 修士課程
**P07** 博士課程
**P09** 研修・セミナー等
**P10** 教育環境
**P11** 入試情報／問い合わせ



## What We Look For 育成する人材像

- 国の科学技術イノベーション政策に携わる中央省庁の行政官
- 研究開発の実施や資金配分を担う組織で企画立案や評価などのマネジメントに携わる職員
- 地域において科学技術イノベーション関連の政策に携わる地方自治体職員
- 大学で研究開発のマネジメントに携わる教職員やリサーチ・アドミニストレーター(URA)
- 企業や非営利組織において研究管理やイノベーション創出に携わる担当者
- 大学や公的研究所等において科学技術イノベーション政策に関する研究ならびに教育を行うことを目指す方
- その他、科学技術イノベーション政策に関心があり、実務や研究に携わることを目指す方

## ACHIEVEMENT

本プログラムで修得が期待できる能力

1. 科学技術イノベーションとその政策に関する学術的知識を有し、それらを政策課題に対して応用することができる能力
2. 公共政策に係る知識を持ち、それらの文脈の中で科学技術イノベーション政策をとらえ、分析ができる能力
3. 科学技術イノベーション政策の課題を対象に、科学的アプローチに基づき、問題を設定し、仮説を構築し、定量的・定性的データ等を活用して分析を行い、それらを政策提言としてまとめ、政策形成者に対して示しコミュニケーションできる能力
4. 科学技術イノベーション政策の形成や実施の実務に関する理解を有し、理論と実務を架橋した実践的な政策提言ができる能力
5. グローバル社会において異なる価値観や制度を尊重し、その中で科学技術イノベーション政策を理解してコミュニケーションする姿勢を持ち、リーダーおよびフォロワーとしての役割を自覚して活躍できる能力

## FACULTY PROFILES 教員紹介



### 林 隆之
教授、プログラムディレクター

専門分野
科学技術政策、科学計量学、
高等教育政策、政策評価



### 隅藏 康一
教授、副ディレクター

専門分野
知的財産政策、科学技術政策



### 根井 寿規
教授、副ディレクター

専門分野
エネルギー政策、原子力安全政策、
地域産業政策



### インタラカムナード・パタラポン
教授、副ディレクター

専門分野
途上国におけるイノベーション政策・
イノベーションシステム



### 鈴木 潤
教授

専門分野
科学技術政策、イノベーション経営



### 飯塚 倫子
教授

専門分野
途上国における
科学技術イノベーション政策



### 廣木 謙三
教授

専門分野
水防災、国際協力



### ブラマー・マシュー
助教授

専門分野
国家安全保障、科学技術イノベーション政策



### 角南 篤
客員教授、学長特別補佐

専門分野
科学・産業技術政策論、公共政策論、
科学技術と外交



### 有本 建男
客員教授

専門分野
科学技術政策、科学的助言、
科学と社会の関係



### 上山 隆大
客員教授（内閣府総合科学技術・
イノベーション会議 有識者議員）

専門分野
科学技術政策、科学技術史、公共政策、
イノベーション政策、アメリカ研究、
高等教育論

**七丈 直弘** 客員教授
一橋大学ソーシャル・データサイエンス学部 教授

**富澤 宏之** 客員教授
科学技術・学術政策研究所 客員総括主任研究官

**長根 裕美** 非常勤講師
千葉大学大学院社会科学研究院 教授

**伊地知 寛博** 外部講師
成城大学社会イノベーション学部 教授

**牧 兼充** 外部講師
早稲田大学大学院経営管理研究科 准教授

**坂本 敏幸** 客員教授
日本エネルギー経済研究所 理事

**久谷 一朗** 外部講師
日本エネルギー経済研究所 研究理事

**柴田 善朗** 外部講師
日本エネルギー経済研究所 研究理事

**末広 茂** 外部講師
日本エネルギー経済研究所 研究主幹

**その他、特別講師多数**

# MASTER'S PROGRAM 修士課程

**本プログラムでは、科学的なアプローチを用い、科学技術イノベーション政策や戦略の企画、立案、遂行、評価、修正を行うことができる職業人および将来研究者を目指す方を育成します。このような人材に求められる政策研究能力と政策や戦略の企画・実践力を育成するため、必要となる複数のディシプリンとともに、社会科学諸分野における分析能力、外国語能力が獲得できるようカリキュラムを編成しています。授業は夜間と土曜にも開講しており、これらの科目だけでも修了に必要な単位が取得できるため、仕事を継続しながら修学することも可能です。**

## 修了要件

カリキュラムに掲げる授業科目から合計30単位以上を修得し、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査に合格し、かつ、最終試験に合格すること。

| 修士論文指導（必修科目） | コースワーク（選択必修・選択科目） | 合計30単位以上 |
|---|---|---|
| 4単位 | 26単位以上 | |

| | |
|---|---|
| 標準修了年限 | 2年 |
| 学位 | 修士（公共政策） |

## スケジュール

コースワークを通じて、問題分析と政策・戦略の企画に必要な知識や方法論を身につけながら、自ら選んだ課題について修士論文等をまとめられるように構成されています。

**履修モデルスケジュール**

| | | 1年目 | | | | 2年目 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 春 | 夏 | 秋 | 冬 | 春 | 夏 | 秋 | 冬 |
| コースワーク（選択必修・選択科目） | 26単位以上 | 8単位 | 2単位 | 7単位 | | 8単位 | 1単位 | | |
| 修士論文指導（必修科目） | 4単位以上 | | | リサーチメソッド説明 | 研究計画発表 | 進捗発表 | | 進捗発表 | 最終発表 |

**基礎的科目**

科学技術イノベーション政策概論／科学技術イノベーション政策史／公的機関からのイノベーション創出／イノベーションと経済学／科学技術イノベーション政策立案演習、他

**応用科目**

ビブリオメトリクスとその応用／科学技術イノベーション政策と評価／計量分析演習／科学技術外交論／科学技術イノベーション政策の史的比較／科学技術とアントレプレナーシップ／知的財産マネジメント、他

## 過去の論文テーマ例

| 年度 | テーマ |
|---|---|
| 2022 | ● 共創の場形成支援プロジェクトの採択地区から見る産学官民の共創的な関係性とその効果<br>● 日本の地方中枢都市の起業エコシステムの分析と起業エコシステム概念の再検討<br>── 札幌·仙台·広島·福岡の比較分析 ── |
| 2021 | ● 開発途上国におけるソーシャルイノベーションの実現にかかる開発協力機関と各主体との共創のあり方とその効果について ── 社会課題解決にかかる国際協力機構（JICA）の事業を例にして<br>● i-Constructionの政策効果の実証分析に基づくイノベーションの創出と普及に必要な公共調達部門の能力の考察 |
| 2020 | ● デジタルトランスフォーメーションを加速させる情報通信行政の在り方についての一考察<br>── 外部人材の活用を通じた日本のDX化の加速 ──<br>● How public and private sectors share the roles in making information systems work for public goods:  A case of eHealth Center and mandatory CSR law in India |

## 修了生の声



**笠井 英和さん**　総務省　2021年3月 / 修士課程修了

### 地域でデジタルトランスフォーメーションを加速するために

民間企業で情報システムの開発・運用業務に従事後、総務省に入省。日々の実務において、変化する技術や環境を踏まえた政策立案の必要性を感じ、「STI政策」を体系的に学べるGRIPSを志望しました。STIプログラムの魅力は、充実したカリキュラムです。歴史や政策の評価方法、産学連携政策など、幅広く講義を受講できます。また、教員の多くが、政府の審議会に係わっているため、政策の裏に踏み込んだ話を聞くこともできます。更に、同業の公務員だけでなく、研究機関や民間企業で働く社会人、留学生とも議論ができ、多角的な視点で思考する重要性にも改めて気づくことができました。修士論文では、DXを加速させるために必要なICT政策の在り方について、事例を通して検証しました。



**小沼（伊藤）千晴さん**　日本貿易振興機構（ジェトロ）　2020年6月 / 修士課程修了

### 誰もがテクノロジーの恩恵を享受できる社会を目指して

新卒で外資系IT企業に就職し、営業やCSRを経験。仕事を通して、テクノロジーの恩恵を十分に享受できない人がいることを実感し、社会のために技術を活かしていく仕組について考えるようになりました。学生時代から国際交流をやってきたことから、科学技術と新興国開発を学べる修士課程を探し、STIプログラムを見つけました。授業では科学技術イノベーション政策一般の他、開発経済学、SDGsなど幅広く学ぶことができます。また、留学生が多く、私の研究フィールドの現状について議論ができるのも魅力の一つです。修了後は、国連工業開発機関（UNIDO）でインターンシッププログラムに参加しました。

本学では、1年制修士課程「公共政策プログラム科学技術イノベーション政策コース」も併せて設けています。
平日昼間にフルタイム修学することで、1年間で修士（公共政策）の学位を取得できます。
コース指定5科目は、科学技術イノベーション政策プログラムとの共通科目のため、夜間および土曜日に実施します。
詳細は政策研究大学院大学のウェブサイトをご参照ください。

https://www.grips.ac.jp/jp/education/dom_programs/public/innovation/

# DOCTORAL PROGRAM 博士課程

**本プログラムでは、科学的なアプローチを用い、科学技術イノベーション政策や戦略の企画、立案、遂行、評価、修正を行うことができる高度専門職業人および高度な研究能力を有する研究者を育成します。このような人材に求められる高度な政策研究能力と政策や戦略の企画・実践力を育成するため、必要となる複数のディシプリンとともに、社会科学諸分野における分析能力、高等教育での教授能力、高度な外国語能力が獲得できるようカリキュラムを編成しています。授業は夜間と土曜にも開講しており、仕事を継続しながら修学することも可能です。**

## 修了要件

カリキュラムに掲げる授業科目から14単位（必修4単位含む）以上を取得し、博士論文提出資格試験（Qualifying Examination）に合格の上、博士論文の最終審査に合格すること。

| 博士論文指導（必修科目） | コースワーク（選択必修・選択科目） | 合計14単位以上 |
|---|---|---|
| 4単位 | 10単位以上 | |

※2021年度より、修了要件の単位数を20単位→14単位に変更しましたが、GRIPSの科学技術イノベーション政策プログラム修士課程を修了するなど、科学技術イノベーション政策に関する学修歴がない場合には、修了要件14単位を超えて、これまで同様に20単位程度の取得をプログラムとして推奨します。

| | |
|---|---|
| **標準修了年限** | 3年 |
| **学位** | 博士(政策研究), Doctor of Policy Studies<br>博士(公共政策分析), Ph.D. in Public Policy |

## スケジュール

1年目のコースワークでは科学技術イノベーション政策分野を中心に学術的な理論や分析手法を身につけ、ディスカッションやグループワークを通じて政策立案の実践的能力を育成します。2年目以降に博士論文のための研究と発表を通じて研究力を養います。

**履修モデルスケジュール**

| 1年目 | | | | 2年目 | | | | 3年目 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 春 | 夏 | 秋 | 冬 | 春 | 夏 | 秋 | 冬 | 春 | 夏 | 秋 | 冬 |
| コースワーク<br>（選択必修・選択科目10単位以上） | | | | | | | | | | | |
| 課題研究<br>1単位 | | 課題研究<br>1単位 | | 課題研究<br>1単位 | | 課題研究<br>1単位 | | 課題研究<br>1単位 | | 課題研究<br>1単位 | |
| | | | | 博士論文提出資格試験<br>（10単位以上履修後に受験可能） | | | | | | 博士論文<br>最終審査 | |

**基礎的科目**

科学技術イノベーション政策概論／公的機関からのイノベーション創出／イノベーションと経済学／科学技術イノベーション政策立案演習、他

**応用科目**

ビブリオメトリクスとその応用／科学技術イノベーション政策と評価／計量分析演習／科学技術外交論／科学技術イノベーション政策の史的比較／高等教育・産学連携政策／科学技術とアントレプレナーシップ／知的財産マネジメント／Science, Technology and Innovation Policy in Developing Country Context／Advanced Energy Policy、他

## 過去の論文テーマ例

| 年度 | テーマ |
|---|---|
| 2022 | • Fostering Further Participation in Agri-Food Business Global Value Chains: A Multiple Case-Study on Intermediary Roles and Capabilities in the Philippine Rice and Mango Industries<br>• Essays on Evaluation of Global Health Policy on Tuberculosis Control |
| 2021 | • Renewable Energy Policy and Investment Decision-Making in Electricity Markets<br>• Influence of Systemic Analytical Capacity on Policy-relevant Knowledge Production and Utilization: Case of Science of Science and Innovation Policy |
| 2019 | • An Inquiry of Government's Extending the Role of State-owned Enterprises for the Interest of Science, Technology and Innovation Policy : Case Studies from Indonesia |
| 2018 | • Promoting Scientodiversity through Research Grants |

## 修了生の声



**ケヴィン クリストファー ゴさん**
Ateneo de Manila University
2022年6月 / 博士課程修了

### 母国フィリピンでSTI政策の推進を目指して

発展途上国では、時に開発や産業等の政策が優先され、STI政策は後回しになるという現実があるものの、多くの人がSTI政策は、経済、環境、貧困、SDGsに与えるインパクトは非常に大きいと認識しています。GRIPSで学んだことを活かして、フィリピンにおけるSTI推進者や実践者のコミュニティの成長をサポートしていくつもりです。学んだことを単に社会に適用するだけでは、STI文化は醸成されませんので、STIの持つ素晴らしさを若い人たちに知ってもらう必要があると思っています。Ateneo de Manila大学に戻って、開発研究プログラムの教員として教鞭をとり、学生を指導していきます。更に、母国の発展に貢献できるように、関係省庁や関係セクターへ博士論文を通じて学んだことを共有し続けていきます。



**嶋田 義皓さん**
科学技術振興機構
2018年6月 / 博士課程修了

### 実務から生まれる問題意識を政策研究として探求

科学館やファンディング機関で仕事をしてきたことから、科学と社会の関係に関心があり、国内留学制度を活用し進学を決めました。他大学と比較しましたが、GRIPSのSTIプログラムは、開発経済学、公共政策、外交など幅広い分野から構成されていたのが魅力でした。論文や学術機関について、今どういうデータが利用可能で誰がどのような分析をしているのかといった土地勘を得られたのは、現在の業務でも役立っています。在学中は、科学研究の多様性に着目。ファンディングプログラムの性格や規模が、研究の多様性にどのような影響を与えているのか分析し論文にまとめました。

# TRAINING, SEMINARS 研修·セミナー等

**本プログラムでは、修士課程、博士課程の授業の他にも、短期プログラム、サマーキャンプ、セミナーなどを通じて、国内外の有識者から幅広く学べる環境を提供しています。**

## 科学技術イノベーション政策·経営人材養成 短期プログラム

科学技術イノベーション政策や研究開発戦略の分析、企画·立案、運営、評価に必要な知識と方法の基礎を学修できる社会人向けの履修証明プログラムを提供しています。本学修士·博士課程の正規授業科目であり、科目等履修生制度を活用することで、単位認定をします。正規課程に進学した場合には、単位の移行が可能です。

**履修可能な科目(6単位)**
科学技術イノベーション政策概論 ／ 公的機関からのイノベーション創出 ／ 科学技術イノベーション政策立案演習

**開講スケジュール(2023年度の場合)**
春学期後期 ※7月15日(土)、7月22日(土)は、5限(16:40-18:10)も講義を実施。 ※7月29日(土)は予備日。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 2023年<br>6月10日～7月22日<br>土曜日 | 1限<br>(9:00-10:30) | 2限<br>(10:40-12:20) | 3限<br>(13:20-14:50) | 4限<br>(15:00-16:30) | 5限<br>(16:40-18:10) |
| | 公的機関からのイノベーション創出 | | 科学技術イノベーション政策概論 | | ——— |

夏学期

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 2023年<br>8月5日、6日、11日の<br>3日間集中講義 | 1限<br>(9:00-10:30) | 2限<br>(10:40-12:20) | 3限<br>(13:20-14:50) | 4限<br>(15:00-16:30) | 5限<br>(16:40-18:10) |
| | 科学技術イノベーション政策立案演習 | | | | |

**受講料等**
● 検定料:9,800円　● 受講料:114,600円

**募集期間**
例年12月～1月にかけて翌年度の受講生を募集しています。

## サマーキャンプ

文部科学省「科学技術イノベーション政策のための科学」事業に関わる6大学5拠点(東大、一橋、京大、阪大、九大)、文部科学省、NISTEP、RISTEXなど科学技術イノベーション政策を教育、研究している機関と連携して、夏学期に2泊3日の演習を実施。専門の異なる学生と共に、模擬政策立案を行います。



## GiST セミナー

国内外から有識者をお招きし、科学技術イノベーション政策における最先端の研究動向、実務動向について講演いただきます。



# LEARNING ENVIRONMENTS 教育環境

**政策研究大学院大学では、教務事務を担当する職員に加えコーディネーター(教育プログラムの運営·管理を担当する事務職員)を配置し、学生それぞれの都合に合わせたきめ細やかなサポートを行っています。**




## 国際色豊かな環境

日本を含む56の国と地域から学生が集まっています。また、全学生の約3分の2が留学生という極めて国際的な環境です。留学生の多くは各国の公的機関から派遣されており、自国の政策形成·立案に携わる人材です。他大学にはないGRIPSの特徴的なネットワークです。



## 図書館

図書館では、政治学、経済学関係の専門書をはじめ、政策研究に必要な和·洋の専門書、逐次刊行物(雑誌、年鑑、統計等)等、広く政策研究に関する文献を利用できます。蔵書数は19万冊を超え、電子ジャーナルを含め12,000を超えるタイトルの雑誌を閲覧可能です。



## 学術機関リポジトリ

学位論文、ディスカッション·ペーパーを中心に本学の教育研究活動の成果を発信しています。科学技術イノベーション政策に関しては『SciREXワーキングペーパー』というシリーズを発行しており、指導教員と相談の上投稿が可能です。

## プロフェッショナル·コミュニケーションセンター

本学で学ぶ学生および教職員は、さまざまな交渉相手と生産的なコミュニケーションを行うことが求められます。そのような場面に必要不可欠となるプロフェッショナルとしてのコミュニケーション·スキルと日本語·英語の言語運用力育成のためにプロフェッショナル·コミュニケーション·センターを設けています。

## 院生研究室

日本人学生と留学生が共同で利用する院生研究室が整備されており、個人用のブースが用意されています。また、学生の文化や宗教などの多様化への対応として祈りを捧げるスペースを用意しています。